

様式1

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標：豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する。</p> <p>教育方針：1 広い視野と健康で豊かな人間性の育成 2 個性と創造性の伸長 3 社会人としての資質の涵養 4 望ましい勤労観と職業観の形成</p> <p>校訓：スクールモットー「信」「創」「翔」</p>

<p>2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）</p> <p>○ 学校全体としては落ち着いた学習環境が維持されている。しかし、様々な課題を抱えている生徒が多く、将来の自立に向けてきめ細かな支援体制を整備・充実する必要がある。</p> <p>○ 義務教育段階での基礎学力が定着していない生徒が多い。基礎学力の定着に向けて組織的・計画的な「学び直し」の取組の工夫・改善が求められる。</p> <p>○ 進学・就職とも生徒が希望する進路実現が達成できた。早期の進路啓発に取り組みとともに、コミュニケーション能力の育成や資格取得の奨励等を積極的に推進する必要がある。</p> <p>○ PTAや定時制教育振興会、市役所や商工会議所その他の関係機関との連携を深め、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域連携教育の取組を推進する。</p>

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>「学び直しと自立への支援」</p> <p>1 地域とともにある学校づくりといきいき環境づくり ・コミュニティ・スクールの仕組みを活かした地域連携教育の推進 ・スクールカウンセラーや養護教諭と連携した教育相談の活性化</p> <p>2 将来への道づくり ・生徒一人ひとりの自立をめざす教育活動の充実 ・社会性と公共心の育成（あいさつ、言葉遣い、身だしなみ、清掃活動等）</p> <p>3 輝く人づくり ・学び直しによる基礎学力の定着と学ぶ意欲の育成 ・体験的・協働的な学びを通じた自己肯定感・自己有用感の醸成</p>	<p>本年度のチャレンジ目標</p> <p>Together as ONE ～ 自分たちの未来を切り拓こう～</p> <p>○ 無断欠席・無断遅刻ゼロ ○ 各種資格取得にチャレンジ ○ 就職・進学 希望進路100%達成 ○ 自ら考え、判断し、行動する高校生</p>
---	--

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
地域連携	・持続可能な地域連携教育の推進	・地域連携や高大連携等を活用した学校行事の開催や地域のボランティア活動等の体験学習を通じて、学校支援や地域貢献に資する活動を実施する。	4: 学校支援や地域貢献につながる行事や活動を年間5回以上実施した。 3: 学校支援や地域貢献につながる行事や活動を年間4回以上実施した。 2: 学校支援や地域貢献につながる行事や活動を年間3回以上実施した。 1: 学校支援や地域貢献につながる行事や活動の実施は年間3回未満であった。	4	5月に定時制教育振興会総会を開催した。7月に地域清掃ボランティア活動を実施した。8月に地域の事業所でインターンシップを実施した。9月に山口短期大学の協力によりミニ音楽会を開催した。9月の天神まちかどフェスタでは、これまでで最多の生徒19名が参加し、定時制ブースでの商品販売やPTAバザーで調理・販売等を行った。	定時制教育振興会等による学校支援が効果的に行われている。また、地域清掃ボランティア活動等の地域貢献の活動にも取り組んでおり、今後とも地域密着型の特色ある教育活動の充実を期待する。	A
	・基礎学力の定着	・漢字テストを計画的・組織的に実施するなど各教科・科目で義務教育段階での既習内容の確認を徹底するとともに、各種検定や資格取得に取り組ませることで学習意欲の向上を図る。	4: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が90%以上であった。 3: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が80%以上であった。 2: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒が70%以上であった。 1: 授業アンケートで「授業の内容が理解できる」と回答した生徒は70%未満であった。	3	授業アンケートで「授業の内容が理解できる」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は87.3%であった。しかし、昨年度より5.5ポイント下落したことから、更なる学力の実態把握に努め、「つまずき」の箇所や「困り感」などに寄り添った学習支援の充実を図る。	義務教育段階での課題がある中、きめ細かな「学び直し」の指導がなされている。今後とも生徒に寄り添った学習支援の充実を図ってほしい。	B
教務	・授業力の向上	・授業中の私語や居眠り、スマホいじりを防止するなど授業規律の向上に取り組む一方、教材の精選や教授法の工夫・改善を通じて「わかる喜び」「できる楽しさ」を実感できる授業づくりに努める。	4: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が90%以上であった。 3: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が80%以上であった。 2: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度が70%以上であった。 1: 授業アンケートで、教員の授業に対する生徒の満足度は70%未満であった。	3	授業アンケートで「先生は十分に準備をして授業に臨んでいる」など教員の授業に関する設問6項目に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）は89.5%であった。しかし、「授業のねらいやポイントがよく分かる」（85.8%）など2項目で90%を下回ったことから、更なる授業改善に取り組む必要がある。	基礎学力が十分に定着していない生徒が多くいることから、生徒のつまずきや学習ニーズを的確に把握し、分ける喜びを実感できる授業づくりに努めてほしい。	B
	・いじめを許さない学校づくり	・よりよい人間関係を形成することを通じていじめの未然防止に努めるとともに、各種アンケート調査や個人面談等を計画的・定期的に実施していじめの早期発見・早期対応に取り組む。	4: 学校が認知したいじめについて、解消率が100%であった。 3: 学校が認知したいじめについて、解消率が80%以上であった。 2: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%以上であった。 1: 学校が認知したいじめについて、解消率が60%未満であった。	4	普段の言動やSNSでのやりとり起因する感情的もつれ等の生徒間トラブルは少なからず発生しているが、いじめに発展したものはなかった。また、担任への訴えやアンケートでの回答に対しては、迅速に組織的な対応を取ることができた。今後とも「いついじめが起きてもおかしくない」との認識を教員間で共有し、組織的な取組に努める。	いじめについては社会的にも大きな関心が寄せられており、日頃からのきめ細かな取組を期待する。少人数の良さを活かして、生徒が豊かで温もりのある人間関係を築いていけるよう、しっかり対応してほしい。	A
生徒指導	・基本的生活習慣の確立	・正門指導等を組織的・計画的に実施することにより、挨拶や時間厳守など社会人基礎力を育成する。	4: 「基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」と回答した生徒が90%以上であった。 3: 「基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」と回答した生徒が80%以上であった。 2: 「基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」と回答した生徒が70%以上であった。 1: 「基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」と回答した生徒が70%未満であった。	3	学校評価アンケートで「防府商工高校は挨拶や時間を守るなど礼法や基本的生活習慣に関する指導に力を入れている」という設問に対する肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）の割合は87.2%であった。今後はマナー講座を開催するなどキャリア教育の充実・改善を図る。	基本的生活習慣の確立は社会人として重要であり、職場等で良好な人間関係を築き、周囲から信頼されるためには挨拶や礼儀等は大切である。今後とも生徒が基本的生活習慣を身に付けられるよう指導を継続してほしい。	B
	〔就職〕 ・就職希望者全員が正規雇用で就職	・学年に応じた進路指導を充実する。 ・求人情報を提供する。 ・求人開拓をして求人確保する。	4: 就職希望者全員が正規雇用で就職できた。 3: 正規雇用での就職者が80%以上だった。 2: 正規雇用での就職者が60%以上だった。 1: 正規雇用での就職者は60%未満だった。	1	正規雇用の内定者は4名で、全体の57.1%であった。未内定者については、今後とも本人・保護者への支援を強化し、年度内の内定実現に努める。	生徒が意欲的に進路実現に取り組む意識を持つよう早期の進路啓発に努めてほしい。	C
進路指導	〔進学〕 ・進学希望者全員が希望する大学等に進学	・進学情報を提供する。 ・個別指導による受験対策を徹底する。	4: 進学希望者全員が志望校に進学できた。 3: 志望校への進学者が80%以上だった。 2: 志望校への進学者が60%以上だった。 1: 志望校への進学者は60%未満だった。	2	推薦入試の合格者は2名で、全体の66.7%であった。まだ合格に至っていない生徒については、一般入試での合格をめざして支援を強化していく。	経済的に困難な者も奨学金制度等を活用して進学の希望がかなうよう支援してほしい。	B
	・教育相談体制の充実	・養護教諭、スクールカウンセラーと連携した教育相談を推進し、いじめや自傷行為等の問題行動の早期発見・早期対応に努める。	4: SC同席連絡会を年10回以上開催した。 3: SC同席連絡会を年8回以上開催した。 2: SC同席連絡会を年6回以上開催した。 1: SC同席連絡会の開催は年6回未満だった。	4	スクールカウンセラー来校時にSC同席連絡会を11回開催した。教員間の情報交換やSCからのコンサルテーションによって生徒理解の深化が図られた。	今後とも生徒が教員に悩み等を相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、情報交換をしっかりと行ってほしい。	A
専門	・資格取得の奨励	・各種検定や資格取得を積極的に奨励するとともに、受験対策の課外等を実施して合格者の増加に努める。	4: 合格者が昨年度より30%以上増加した。 3: 合格者が昨年度より20%以上増加した。 2: 合格者が昨年度より10%以上増加した。 1: 合格者は昨年度並みまたは減少した。	1	合格者は昨年度より5名少ない15名だったが、漢字検定準2級2名、ビジネス文書検定1級1名、簿記実務検定1級1名、日商簿記検定3級1名合格など、意欲的な取組があった。	時間的な制約や生徒のやる気の問題もあるが、少しずつでも成果が上がるよう努力を続けてほしい。	C
	学校の組織等	・今後の教員の転退職等に伴う各分掌業務の引継ぎに備えるため、日常的なOJTを活発化するとともに、常日頃から情報交換を緊密に行って教員間の共通理解を図り、業務を円滑に遂行する。	4: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が90%以上であった。 3: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が80%以上であった。 2: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員が70%以上であった。 1: 「業務がスムーズに遂行されている」と回答した教員は70%未満であった。	4	学校評価アンケートで「各分掌ごとの情報交換により、業務がスムーズに遂行されている」という設問に、「そう思う」66.7%、「だいたいそう思う」33.3%と、両者を合わせた肯定的な評価が100%だった。年度末に迫った再任用教員の退職等に備え、各分掌で意識的な業務の引継ぎが進められた。	小規模ながら多様な生徒が在籍していることから、各種業務の遂行に当たってはきめ細かな情報交換を行うなど、引継ぎをしっかりと行ってほしい。	A
業務改善	日常的な業務	・午後4時以降の会議開催を避けるなどの業務改善と働き方改革を推進し、教員が生徒とゆとりを持って向き合える時間を確保できるように努める。	4: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が90%以上であった。 3: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が80%以上であった。 2: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員が70%以上であった。 1: 「生徒とゆとりを持って向き合えた」と回答した教員は70%未満であった。	4	学校評価アンケートで「生徒とゆとりを持って向き合えている」という設問に、「そう思う」44.4%、「だいたいそう思う」55.6%と、両者を合わせた肯定的な評価が100%だった。夜間部であるため生徒が学校で過ごす時間は短い。業務改善の取組により教員が生徒と向き合える環境はある程度整備できている。	教員がゆとりを持って生徒に向き合う環境が維持されている様子がうかがえる。生徒一人ひとりとじっくり向き合い、自立に向けた支援が充実するよう、これからも現状を維持してほしい。	A
	勤務状況	・時間外勤務を前年比10%削減する。 ・ワークライフバランスの推進	4: 時間外勤務が前年比10%以上削減された。 3: 時間外勤務が前年比8%以上削減された。 2: 時間外勤務が前年比6%以上削減された。 1: 時間外勤務の削減は6%未満であった。	1	今年度の時間外勤務は月平均13.6時間で、前年比4.6%の増加となった。目標実現に向け、更に一層の努力が必要である。	教員の長時間労働の解消に向けて更なる工夫・改善の努力を続けてほしい。	C

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

- 夜間という時間的制約があるものの、コミュニティ・スクールの取組の一環として学校支援・地域貢献の活動を実施することができた。
- 「学び直し」の一環として計画的・組織的に漢字テストを実施し、基礎学力の定着、学習意欲の向上を図ることができた。
- 各種検定・資格取得を積極的に奨励し、生徒の進路実現につなげるとともに、生徒の自己肯定感・自己有用感の涵養につながった。
- 年休取得を奨励し、ワークライフバランスの実現に努めた。また、時間外勤務縮減のための環境整備に努めたが、顕著な効果にはつながっていない。

7 次年度への改善策

- コミュニティ・スクールの取組として、地域からの学校支援の在り方について関係機関等と協議する。
- 基礎学力の定着に向けた授業改善に努めるとともに、組織的・計画的な「学び直し」の取組について検討する。
- 進路実現に向けて前向きに取り組む生徒を育てよう、更なるキャリア教育の充実を図る。
- 教員の意識改革を図り、時間外勤務を縮減する。